



川根 愛好家

安芸高田市で、夢を抱いて様々な活動に取り組み挑戦者たち。彼ら突き動かす原動力とその熱い想いに迫ります。

川根にある企業が心一つになって 地域を盛り上げていくことが私の夢

川根柚子協同組合

くまたか
熊高

じゅんや
順八さん

フットワークの
軽さが自慢です



<p>目標</p>	<p>楽しみ</p>	<p>宝物</p>
-----------	------------	-----------

目標は平成2年に地域の将来の夢をジオラマ化した「川根夢ろまん宣言」を実現すること
毎年恒例の「川根地域大運動会」。今年も司会と実況を担当して、大会を盛り上げました
多忙な熊高さんを癒す、「こむぎ」と「こまめ」。ソンデレな態度がたまらないそうです

川根柚子
ネットショップ

川根夢ろまん宣言

市の特産品、「川根柚子」の栽培から加工品の製造、販売までを手掛ける川根柚子協同組合。そこで営業部長として活躍している熊高さんは、全国に向けて川根柚子の魅力発信する営業マンです。「数が限られる川根柚子は、この良さを本当に理解してくれる取引先と出会うことが大切。全国で開催される展示会に出向いたり、魅力を「見える化」するために「HACCP（ハサップ）」や「グローバルギャップ」といった農作物の認定制度にも積極的に取り組んでいます」と話します。熱い熱い柚子愛を語る熊高さんですが、その根底にあるのは地域愛。「全国で限界集落が問題化する中、川根も例外ではありません。働く場所があれば人口の流出はゆるやかにでき、外からも働く人が来てくれる可能性がある。先人が築き上げた川根柚子を地域経済の基盤にすることが私の夢です」。川根柚子の魅力をさらに高めるために、今行っているのが「ブランドの再構築」。川根柚子の背景にある物語を知ってもらうことで、買い手の心に響く商品を手掛けていきたいと考えています。夢が叶うその日まで、熊高さんの挑戦は続きます。

先代から受け継いだ川根柚子で
生まれ育った故郷を元気に！

競技大会 全国大会をめざして 第14回ひろしま障害者 フライングディスク競技大会

9月24日（日）／吉田サッカー公園

県内の障害者スポーツの振興と交流を目的に、毎年実施されているフライングディスク競技大会が今年も開催されました。競技は、輪を通過した枚数で競い合う『アキュラシー競技』と飛距離を競う『ディスタンス競技』の2種目。全国大会の予選を兼ねているため、参加者の表情は真剣そのもの。秋晴れの心地よい日に爽やかな汗を流していました。また、当日は吉田高校、向原高校の生徒を含むボランティアも約100名の集まり、大会をサポートしました。



神楽 広島駅南口に神楽囃子が鳴り響く ひろしま神楽の日2017

9月30日（土）、10月1日（日）
／広島駅南口エールエール地下広場

広島広域都市圏協議会『「神楽」まち起こし協議会』を構成する市町から8つの神楽団体が集まりました。2日間の来場者は延べ7,500名。演目が終わるたびに拍手と歓声が沸き起り会場は大いに盛り上がりました。安芸高田市からは「佐々部神楽団」が出演し『悪狐伝』を上演。また「神楽門前湯治村 体験工房和楽 三矢グループ」は工作体験で講師を務めました。観光物産展も同時開催されるなど広島広域都市圏、そして神楽の魅力に触れる2日間となりました。



神楽 子どもたちの舞に拍手喝采 第19回美土里こども神楽発表大会

9月18日（月・祝）／神楽門前湯治村



毎年、敬老の日に合わせて開催されている『こども神楽発表大会』が今年も開催され、町内で活動する7団体と特別出演の郡山子ども神楽団、儀式舞を舞った浦安の舞保存会の全9団体が出演しました。参加したのは3才から中学3年生までの総勢約100名。懸命に演目を披露する子どもたちに、会場からは惜しめない拍手が送られていました。今年も司会やパンフレットの配布などのサポートメンバーとして、美土里小学校の6年生が参加し、大会を支えてくれました。

祭り 3イベントが同時開催！ 第8回美土里米舞まつり・第42回美土里神楽発表大会・かんきょうまつりinあきたかた

9月23日（土・祝）、24日（日）／神楽門前湯治村



例年、同時開催している米舞まつりと美土里神楽発表大会に、今年は『かんきょうまつり in あきたかた』が加わり、2日間で約1,200人の来場者が訪れました。美土里神楽発表大会は美土里町で活動する14団体が一堂に会する年に一度の大イベント。今年も迫力満点の舞が披露され、会場を沸かせていました。米舞まつりでは、かまどで炊いた新米が振る舞われ、新鮮野菜や美土里和牛の炭火焼などの特産品も登場。来場者は美土里町ならではのグルメも満喫していました。